

令和6年度 学校経営計画・自己評価書

足立区立千寿桜小学校

校長 渡 辺 円

1 学校教育目標							
学ぶ喜び		ふれあう喜び		鍛える喜びを			
				もつ子ども			
2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像							
○学校像	・学力の向上に取り組む学校		・居心地のよい学校づくりに取り組む学校		・体力向上に取り組む学校		
○児童・生徒像	・学ぶ喜びをもつ子		・ふれあう喜びをもつ子		・鍛える喜びをもつ子		
○教師像	・授業改善を推進する教師		・児童の可能性を引き出す教師		・子供と共に汗を流す教師		
3 学校の現状及び前年度の成果と課題							
北千住駅から徒歩15分の本校は、墨堤通りと隅田川に挟まれた場所に位置する。平成4年に統合により「千寿桜小学校」として開校して33年を迎える。通常の学級18学級、知的固定学級3学級、全校児童数520名ほどの中規模の学校である。 令和6年度4月は教員のほぼ半数にあたる13名の転入がある。これまで積み上げてきた本校の取り組みを確実に継承・発展させていくことが、今年度の課題である。また、足立区指導力向上中核校（理科）として、中間発表を1月に実施する計画である。 1 学ぶ喜びをもつ子 昨年の4月の区学力調査では通過率国語86.8%、算数88.4%を達成した。短作文、「桜☆学習コンテスト」を今後も充実させる。長期休みに宿題とし、休み明けに学校全体でテストに一斉に取り組む。結果が表れることを実感させ、地道に努力する習慣を身に付けさせる。5年目を迎える足立区指導力向上中核校（理科）としての研究を通し、理科好きな児童が増えている。主体的に問題解決する姿が見られている。 2 ふれあう喜びをもつ子 毎月実施する「いじめ防止対策委員会」において、学級担任等からの聞き取り対応を迅速に行っている。また、Web-QUの結果や各種アンケート調査の結果を生かしながら、いじめの早期発見・早期対応を図ることで、継続するいじめの件数0を目指していく。 3 鍛える喜びをもつ子 投力向上の取り組みなどが成果として現れ、全学年全種目96項目中56項目が都平均を超えた。体力向上は継続した課題である。							
4 重点的な取組事項							
	内 容		実施期間（年度） R:令和				
			R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	学ぶ喜びをもつ子	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	ふれあう喜びをもつ子	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	鍛える喜びをもつ子	○	○	○	○	○

5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン		学ぶ喜びをもつ子					
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業力の向上と 基礎学力の定着率向上		令和 6 年度目標通過率 国語・算数共に 85.0 2 月到達度確認テスト 国語 78.0 算数 78.0		通過率、国語 83.1, 算数 83.1		2 月到達度確認テスト、国語 82.1 算数 80.7、 外国語 89.9、国語算数の 2 教科合計で 81.4 の通過率。未通過児童へ補習等で指導を継続 する。学習の定着状況と具体的な取組は 6 (1) アを参照		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象学 年 実施教科 科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	朝のモジュール 学習	全学年 国語	原則週 4 回 年 50 単 位 時 間 程度 始 業 前 15 分	新出漢字等の言語事項指導を 行う 読み書きの練習やテストを継続 して実施	桜☆学習コ ンテスト、漢字 での満点 者数	4・9・1 月のコンテ ストにおける、最 終合格者数 各 85%	最終合格者数は、各 回とも 85%を超えた	漢字指導は、一層の 定着を目指す。漢字 の問題は、校内独自 に、問題をデジタル化 することができた	◎
2 継続	タブレット活用	全学年 全教科	年間	AIドリル利用の推進、クラスルームを 活用した課題の提出・回収、フ ォームアンケート等を活用し、個別最 適な学びと協同的な学びを実現する	児童アンケート	学校の授業は わかるに肯定 的評価 90%以 上	学校の授業が分か る、92.5%。 タブレットは全学年で活 用を図っている	AIドリルとのハイブリッド 学習を推進する方策 を検討中	◎
3 継続	自学ノート	2 年 生 以上 全教科	年間 (2 年 生 は 後 期 か ら)	家庭学習の習慣化と興味ある 学習等で自ら課題設定し追究 する力の育成を目指す 自ら考えた課題で自学ノートに 取り組む 模範となる自習ノートを掲出する	各 学 年 の 模範ノートを 毎月掲示 児童アンケート	全学年毎月掲 載更新 家で宿題以外 の勉強をする 児童 70%	自学ノートを掲載し、質 の向上啓発が図れ た。デジタルでの発信、 図書室への掲示も行 った	主体的な学びとし て、課題を設定して、 自ら解決することの できる児童の育成を 推進する	◎

4 継続	短作文	全学年 各教科 領域	週1回	低学年100文字程度、高学年200文字程度の短作文を習慣化 テーマや書き出し読む対象等を工夫し、書く力を身に付けさせる	学級担任 からの聞き取り	年間30回を目標に短作文に取り組む 各学級80%達成	学年による課題の違いはあるが、全校で取り組めた。	学習のまとめや感想を含め、短作文の取り組みを進めることができた	○
5 継続	桜☆学習コンテスト	全学年 算数 社会	長期休業前後	休業前に課題を提示 (漢字)・計算・ローマ字・23区名・都道府県名の課題 長期休業明けに確認テスト	全員満点を目指す	4・9・1月のコンテストで、最終合格者数 各85%	最終合格者は82%	基礎的な知識の定着を確実なものにしていく	◎
6 継続	MIM-PM	1年 国語	年間	デジタルMIMを活用し、定着を推進する	MIM-PMの結果	3rdステージ人数 12月15%未満を目指す	12月22%、1月17%	MIM指導力の向上も課題である。デジタルMIMの活用は推進できなかった	△
7 継続	体験活動・主体的に問題解決する児童の育成	全学年 理科 生活科	年間	体験を通して主体的に学ぶ自児童を育成するための研究授業の実施	校内研究を通して	①6・9・10月に3回の研究授業を実施 ②1月に3学年の授業公開と中間発表会を実施	①2・4・6年で授業を実施した ②指導力向上中核校の中間発表は約90名の参観者を集め1/31に実施した	次年度以降も、体験を通して主体的に学ぶ自児童を育成するため、研究を継続する	◎

重点的な取組事項－ 2		豊かな心の育成 ふれあう喜びをもつ子			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
いじめ防止の徹底、いじめの早期発見、早期対応、早期解決、深刻ないじめ根絶体験的な学習や地域と触れ合う行事をとおして、地域に見守られ、安心して通える学校とする。		4 か月以上継続するいじめの件数 0 児童アンケートで「安心して、楽しく学校に来ることができた」の肯定的評価 90%以上	4 か月以上継続の件数 0 「安心して、楽しく学校に来ることができた」は、90%以上を達成	いじめ防止基本方針に基づき、全ての児童の人権を尊重して、教育活動にあたる	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度

思いやりの心の育成	①保護者アンケートで「学校は思いやりの心を育て、いじめ防止に努力している」の肯定的評価 90% ②児童アンケートで「安心して、楽しく学校へ来ることができた」の肯定的評価 90%	・幼保小連携、小中連携の工夫（間接・直接交流） ・地域にかかわる体験活動や本物に触れる活動等を各学年 5 回以上実施。 ・QU や各種意識調査結果を分析し、児童に寄り添った指導を心掛ける ・たんぽぽ学級と通常の学級との交流活動を年間通して実施	保護者アンケート、児童アンケート共に基準を満たした 幼保小の連携は、授業体験や給食体験等推進できた。実施時期の見直しを進める	思いやりの心の育成は、日常の教育活動全体を通し培っている。さらに様々な交流活動や体験活動を通し、強化している	◎
いじめの根絶	①いじめの疑いとして認知した件数 500 件以上 ②いじめとして把握した場合、児童と保護者の不安を年度内にすべて解消	・いじめアンケートで「相談できる人がいない」児童を全職員で共通理解（10 月） ・アンケート内容を管理職がすべて把握 ・いじめ防止研修会を年 5 回以上実施 ・毎月委員会を開催し担任等からヒアリング ・生活指導夕会を週 1 回実施	いじめの疑いとして認知した件数は、12 月末 189 件 相談できる人がいないと回答したのは、全校で 10 名	いじめアンケートで把握したものは、全て個別に聞き取りを行い対応している	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成 鍛える喜びをもつ子			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
「投げる力」を重点として、体力の向上を図る。また、柔軟性・持久力・瞬発力を高めるための取組を実施する。		「ソフトボール投げ」の東京都 T スコアを第 3 学年以上で 50 以上	T スコアは 48.7 50 以上は 6 年男・女	体力調査結果からは、課題が多く残った	△
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
体力の向上	・ソフトボール投げ第 3 学年以上で T スコア 50 以上 ・全学年男女全種目のうち 60%以上が都平均以上	・投げ方教室を実施 ・テーパーボールを主運動とした取組の充実 ・なわ跳び、持久走に集中して取り組む期間を設定	投げ方教室実施 都平均以上は 33% 反復横跳びは半数以上が都平均を超えた	引き続き投力をはじめ、課題のある種目について取り組みを深めていく	△
教員の体育指導力向上	・年 5 回の体育実技研修会を実施する。	・2 領域以上で実技研修会 ・自主研修会で体育研修実施	年 7 回、7 項目で実技研修を実施	実技研修等を通して、体育授業の質を向上させていく	◎

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題】基礎的知識の定着を図る桜☆学習コンテストの合格率の向上、表現する力を伸ばすために短作文の取組の充実、MIM指導の充実

【対策】次年度もモデル学習を取り入れ、年間を通して言語に関わる学習を朝の時間に集中して実施する。

これまでの課題を整理し、本校の児童の良さを生かしながら学力の向上に関して、いい層の推進を図る。

これまでの研究成果を生かし、授業力向上中核校（理科）としての取組を継続させる。

イ 健やかな体の育成について

児童の体力向上に関し、体育授業の改善と、生活の中での体力向上に関わる取り組みについて校内で協議し、方策を考え実施していく。

ウ 豊かな心の育成について

いじめ・暴力行為の根絶に取り組んでいます。「いじめはどの学校にも必ずあること」を前提として、いじめ防止対策委員会を中心に、いじめの早期発見、早期対応、早期解決を図ってきました。

あいさつや返事、丁寧な言葉使いに関し、これからも重点的に指導にあたっていきます。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

子ども達の成長には、学校と保護者が両輪となり同じ方向に進んでいくことが大切です。そこに地域の方々の力が加わり、子ども達の健全育成や体験活動に大きな助けとなっています。開かれた学校づくり協議会、さくらキッズ、図書ボランティア等で活動していただいている皆様と連携を図りながら、子ども達の健全育成に励んでまいります。

(3) その他（学校教育活動全般について）

I C Tを活用した教育活動を一層推進しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向け工夫をしていきます。また、本校の特色であるオープンスペース環境を整えた上で、その施設を有効に活用し教育活動を展開していきます。